

## イスラエルとパレスチナの即時停戦を求めます

今月始まったハマスによるイスラエル攻撃とそれに反撃する形でイスラエルがガザを攻撃する応酬が、多くの命を奪っています。いかなる理由があろうとも、双方の攻撃に断固抗議します。軍用施設ではなく明らかに市民を狙い、甚大な被害を生んでいることにも、激しい怒りを禁じえません。

国際法違反であるイスラエル入植地があるヨルダン川西岸地区、イスラエル軍が完全に包囲するガザ地区では、今回の攻撃以前から人権蹂躪の生活を強いられていました。その封鎖された狭い居住区で、隣国へ逃げる選択肢がなく攻撃される人々の恐怖を思うと、一日も早い停戦、攻撃中止を願うばかりです。

今回はイスラエルとパレスチナの2国間の戦争だと単純化できません。パレスチナ自治区では2006年以降選挙が行われず、イスラム教原理主義集団ハマスの支持率は直近で38%であり、パレスチナ国民が支持しているとはいええないからです。今回のイスラエル攻撃も、パレスチナの市民には事前に周知されていませんでした。

両国の犠牲者は圧倒的に市民が多く、ガザでは病院も爆撃されて最も弱い立場の人々に被害が集中しています。平均年齢が低いパレスチナでは、子ども・若者の犠牲が多く、国の未来が危ぶまれています。「私たちはこれからどう生きていけばいいの」と泣き叫ぶ子どもが報道されました。

抗う術もなく、ただ命を奪われないことを祈るしかないガザの人々。こんな状況が地球上のどこにも存在してはいけません。

アメリカなどの主要国がイスラエル支持を表明する中、攻撃の激化や長期化が懸念されます。戦闘を行う地域に住む人々の人権を無視し、資金・兵器供与などの軍事支援を行う国も非難に値するでしょう。バンカーバスター（地中貫通型爆弾）のような非人道的な兵器を供給するなど、支援国は使用国と等しく同罪です。

私たちは、対話による即時停戦を求めます。誰かが利するためでなく、国際協調で解決を求めることで、この地域での和平が追求できます。

全日本民主医療機関連合会（民医連）に加盟する東京ほくと医療生活協同組合は、あらゆる戦力を否定し、平和な世界でこそ、誰もが安心して暮らせるという方針を持ちます。今回の攻撃は双方が即時停止し、平和を築く努力をすることを求めます。そしてこの攻撃に反対するすべての人々に連帯し、パレスチナやイスラエルの人々が平和に生きられる社会を構成していくことを応援します。

2023年10月28日

東京ほくと医療生活協同組合 理事会